

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400947		
法人名	社会福祉法人 天恵会		
事業所名	グループホーム ありあけの丘		
所在地	熊本県玉名市天水町部田見 448番地1		
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和5年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日常生活の中で入居者の状態の把握、自分で出来る部分は「見守りながら待つ」を職員が念頭に置いて支援している。 ・共用型認知症対応型通所介護と楽しく生活して頂けるよう入居者となじみの関係ができています。 ・家事活動や創作活動は、一人一人の特技を活かせるよう、入居者と共用型認知症対応型通所介護の利用者も含め勧めめています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、「入居者とともに」「地域とともに」「職員の心得」の3項目の理念と、10項目の職員の心得を、仕事を始める前に必ず読み上げて意識付けをしている。本人のしたいことを否定せず、寄り添うことを心がけ、自分でできる部分は「見守りながら待つ」ことを大切に、ケアを行っている。今年度はコロナ感染に加えて疥癬がまん延し、入居者も職員も大変な時期があったが、力を合わせて乗り越えた。入居者の入れ替わりも多かったが、元気でみんな歩くことができ、日中はリビングでテレビを見たり談笑して自由に楽しく過ごしている様子が見られた。法人全体で「コロナ前に戻そう」を目標としており、徐々にドライブ等の外出の機会も増えている。食事はこの12月から外注となったが、ホームではおかずを1品作って添えたり、食器を工夫するなどの配慮を行っており、時には入居者の希望を聞いてラーメン会をしたり、みんなで団子汁や黒糖蒸しパンを作ったりと、食事を楽しむ機会づくりの工夫がみられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になってもその人らしく生活ができるよう努めている。事業所の理念や介護職員の心得を見えやすい場所に掲示し、朝礼時や出勤時に職員全員で読み上げるよう努めている。	「入居者とともに」「地域とともに」「職員の心得」の3項目の理念と、職員の心得をより詳しく具体化した10項目をリビングや事務所に掲示し、仕事を始める前には必ず読み上げて意識付けをしている。本人のしたいことを否定せず、寄り添うことを心がけ、毎月のカンファレンスでケアの振り返りを行って理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になり、本体の交流や地域の人との交流が出来ていない。	以前は法人全体での春まつりやボランティアの集い、保育園との交流会などで地域との交流が行われていたが、コロナ禍以降、行事も中止となり、地域との交流はほとんど行われていない。	法人全体で今年度の目標を「コロナ前に戻そう」としており、できるところから交流を始めていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が緩和され、玉名市キャラバンメイトの活動参加、認知症サポーター養成講座の参加が出来るようになった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隣接のユニット陽だまりと合同で2か月に1回開催している。コロナ禍の対応が緩和され、出席される委員会の方々に直接意見を聞けるようになった。	今年度は、コロナ等の感染状況を見ながら、対面での運営推進会議を再開している。区長・民生委員等メンバーの改選があっており、新たなメンバーでの会議となっている。	新メンバーが数人いることから、「グループホームとは」や「運営推進会議の役割」などについて説明したり、ホームを見てもらって、理解を深めてもらうことが望まれる。また、ホームの各種活動が再開されるに伴い、会議資料の充実も期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に玉名市の担当者、地域包括支援センターの職員にも参加していただき直接意見が聞けるようになった。部門会議でも、運営推進会議の意見を伝えている。また、入居者の変化等について話し合っている。	市との連絡は、副施設長を窓口として、随時行われている。包括支援センターとは、待機者状況の確認等で連絡を取り合ったり、玉名市キャラバンメイト等への活動参加で連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドの4点柵、玄関や出入りができる場所にセンサーやブザーを使用せず見守りを中心に対応し、入居者一人一人のペースや動き出しに合わせ状況を観察している。	身体拘束廃止についての研修は、年2回、法人で外部講師を招いて実施している他、ホームで毎週行う勉強会に組み込んで、意識の浸透を図っている。基本的に、入居者の自由な行動を大切にしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は施設内研修で高齢者虐待について知識を深めた。職員間でも常日頃、入居者を意識して行動するように業務内で不適切な言動は注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族や外部の相談にも担当課へ対応できるよう、映像での施設研修に職員全員参加し学んでいる。成年後見制度を利用されている場合は、担当の方と情報交換など連携体制をとり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書の内容を契約時に説明し、内容以外にも疑問点がないか確認し、承諾を得たうえで契約をいただいている。制度改正に伴う加算や料金などの変更時にはその都度説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、ご家族が日用品を持参された時や電話でも個別に意見を伺っている。ガラス越しの面会を現状も行っているが、徐々に緩和する方向で進めている。	家族には面会時や電話で近況報告を行い、意見・要望等を聞いている。現在の家族の要望は、居室に入って普通に話をしたい、様子を知りたい、ということのみである。	入居者の様子がわかるよう、定期的に近況を知らせるコメントや写真などの送付を再開することで、家族の安心に繋げることも期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部門会議で経営会議、事業運営推進会議の内容を伝え、運営の方針などを周知している。事業所間の情報も、その都度管理者から職員へ伝えている。	月1回のグループホームの部門会議で、入居者個別のケアや行事等について話し合っている。職員の意見・提案は取り入れ、やってみて再検討している。新しい入居者が多いため、熱心に意見を出し合い、より適切なケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とコミュニケーションを図り、気軽に話の出来る環境づくりに努めている。働きやすい職場づくりに努め、職員のやりがいを引き出し得意分野を担当している。また、勤務希望にそえるようお互い様の気持ちで譲り合い勤務調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の施設研修会やグループホームで週に1回勉強会を行い、出来ていないケアやわからない部分の指導を行っている。外部研修も集合型に緩和されたため、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策が緩和され、施設外の職員と交流する機会が出来てきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には、在宅での生活や習慣が継続できるよう情報収集を行い、少しでも不安が軽減でき本人様の思いに沿った支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、入居後もしっかりと家族の意見を傾聴し、気軽に話の出来る雰囲気づくりに配慮し、日々信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所で相談を受けた際には、希望のサービス内容・現状を把握し、様々な支援を紹介、選択が出来ることをお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活を送って頂くため、生活の主体はご本人であり、職員はともに暮らす意識を持ち支援を行っている。家事活動や創作活動を中心にご本人のできる部分に目を向け支援を行っている。できない部分のサポートに心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご本人の思いを理解して頂きながら、家族を思う気持ちがご本人から聞かれた時は、窓ガラス越しの面会をお願いし、協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症による対策も緩和され、外出が出来るようになった。グループホームでは、8月～10月にかけて、コロナ感染症や疥癬が蔓延し外出できない状況であった。終息後、電話や面会などで日々の状況を報告している。	現在は主として、家族・親戚や友人・近所の方等の面会や電話で、馴染みの関係継続を図っている。今後、年賀状書きに取り組んだり、希望があれば、入居者の馴染みの場所に出掛けることなども再開できればと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりやすい環境や空間づくりを行っている。日中はテーブルを囲みお話やレクリエーションを楽しまれている。席の配置を考慮し、利用者間のトラブルや孤立感防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良や入院が理由で通所に来られなくなった際には、ケアマネジャーや家族に電話で状態の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が納得できる暮らしの支援が出来るよう、入居前の生活歴を参考にし、日頃の会話の中からご本人の思いや希望を取り組み、職員で意見を出し合っている。	現在の入居者は、全員自分の思いを表現することができ、できるだけ個々の思いに沿って対応している。朝は起きたい時に起き、朝食は起きた人から食べるなど、家に居るのと同じように自由に過ごしてもらおう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅での生活などを家族への電話や来所された際に伺い、ご本人の生活に馴染んだサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人とかかわる中で、日頃の心身の状態や変化などの申し送りは、日誌に記録し職員に周知している。朝礼や夕礼、部門会議、業務ノートを活用し、再度情報の共有や対応などを話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一回の振り返りや、半年に一回計画を見直している。家族の意見も加え、ご本人様が出来るようなところを職員間で話し合い、少しずつ改善していくように努めている。	モニタリングは3か月に1回、みんなで話し合っており、半年ごとに計画の見直しを行っている。本人ができることは自分でしてもらい、できないことを手伝う「見守りながら待つ」ケアを基本とする、計画作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動している為、介護保険ソフト内の項目に記録し、支援経過や活動を確認共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で起きた疾病については、日頃の状況を把握している職員が同行し、家族にも付き添いをお願いしている。また、定期病院受診は家族に協力してもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのボランティア活動に職員が参加し、区役で年2回清掃活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の選択はご本人とご家族に希望をお聞きしている。往診時には、職員が状態を主治医に報告している。また、定期受診は家族に協力をお願いしている。	かかりつけ医は、入居時に本人・家族の意向を確認しており、現在はほとんどが協力医療機関をかかりつけ医として月1回の往診を受けている。併設特養の看護師と連携が図られており、夜間・緊急時等は必要に応じ看護師・協力医の指示を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本体の看護職員と日頃から連携を図っており、情報共有なども行っている。夜間のオンコール体制をとっており、入居者の異常時には、看護師に報告し必要時には主治医に連絡を取り指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた場合には、医療機関に情報の提供を行っている。入院の状態について、家族からの連絡や病院の担当者に伺っている。退院時には、カンファレンスに参加し、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面会に来られた際に、看取りを希望されるか確認している。現在、看取りを希望されている家族はいない。ユニットバスで入浴が困難になった場合は、ご家族に法人内の特養への入居を希望されるか意向を聞いている。	入居時に、重度化や終末期に於いてホームで出来ること・出来ないことについての説明を行い、意向を確認している。ホームには看護師が不在であり、ホームでの看取りを希望している家族はおらず、重度化した際には特養や医療機関へ移行してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	土砂災害の避難訓練、消防訓練の他、緊急時の連絡フロチャートに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のスムーズな対応が出来るよう、本体施設では年に3回、当事業所では年に1回消防署、消防団、消防設備の点検訓練に参加している。定期的に消防設備の点検も実施しており、毎月通報訓練も行っている。土砂災害危険地域になって為、土砂災害訓練も行っている。	年2回、ホームでの日中・夜間想定避難訓練を実施している他、法人全体で年3回呼集訓練も行われるなど、協力体制が構築されている。また、土砂災害訓練も行っており、土砂崩れの危険がある部屋の人はリビングに移したり、特養に移動するなど、早めに避難することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉かけに日々心掛け、個人の尊厳を大切にしている。	一人ひとりの生活歴を把握し、会話の中にそれぞれに馴染みのある話題を取り入れ、広がりを持たせるよう心掛けている。また、入居者が居室で休んでいる時はドアを閉めて一人の空間を大切にしたり、排泄誘導の際は他の人に聞こえないよう配慮するなど、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思い込みや決めつけで本人の思いに沿わないよう、日常生活の会話で汲み取り、それを一番に考えケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに合わせて体調面や精神面を考慮し、職員優先の暮らしにならないように、入居者の立場に常に自分を置き換え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容時間を大事にしている。入浴時や行事の際には、衣服と一緒に選んでいただき、ご本人の希望に添えるようマニキュアや化粧、スキンケアを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	小さい菜園を建物東側に設けており、皆さんで育てた野菜を収穫し、朝食のお味噌汁の具として使用し提供している。料理教室で、団子汁作りや黒糖蒸しパンを作り調理や食事に楽しもを持たれている。後片付けの茶碗洗いやお盆拭き、テーブル拭きなどをして頂いている。	食事はこの12月から外注しており、チルド状態で届けられたものを湯せんやレンジで温めて提供している。ホームではおかずを1品作って添えたり、食器を工夫するなどの配慮も行われている。時には入居者の希望を聞いて、給食を止めて5種類のラーメンを選べるラーメン会をしたり、みんなで団子汁や黒糖蒸しパンを作ったりと、食事を楽しむ機会づくりの工夫がみられた。	検食は、母体特養で行っているとのことであるが、ホーム職員も検食の一員に組み込んで、時には入居者と同じ食事を摂ることができると良いと思われる。また、季節に応じて梅干し作りや干し柿づくりなどに取り組むのも楽しいと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食のみの献立を1か月ごとに作成し、本体施設の管理栄養士に確認して頂き、献立の見直しや1人分の食材のグラム数も計算され、安心して提供している。昼食・夕食は本体施設で作っている。食事量、水分量のチェックも行っている。12月1日より朝食も本体と同じ献立に変更となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のマウスケアは自室へ誘導し個々の洗面台で行っていただいている。義歯洗浄も同じく自室で行い、毎日浸け置き洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じた誘導に努めるため、排泄チェック表でパターンを掴み対応している。タイミングが合わずに失敗した場合は、自尊心を傷つけないように声かけを工夫し、清拭やシャワー浴で対応している。	ほとんどの方が布パンツのみ、又は布パンツとパット使用で、自立している人も数人いる。誘導が必要な人は個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に努めている。常に家族の経済的負担も考慮しながら適切な排泄用品について検討しており、家族からの信頼も大きくなってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量は1000ml～1500mlを目安に摂取を促している。毎朝食前に牛乳の提供も行っている。昼食か夕食にヨーグルトかヤクルトが提供されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴を実施している。ゆっくりと入浴が出来るように、本人の体調や希望に応じて時間をずらしている。希望がある場合は、追加で入浴を提供している。体調不良で入浴が出来なかった場合は、清拭や衣類交換を行っている。	入浴は基本的に週2回としているが、希望により毎日入ることも可能である。疾患のためシャワー浴としている人以外は皆、湯船につかることができる。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯などを行い、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼はご本人の希望に応じて居室で休まれたり、レクリエーションなどで活発に動いて頂いている。夜間は居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に確認できるよう内服薬をファイルし、職員は入居者の内服内容を理解している。変更があった場合は日誌に記入し申し送りを行っている。名前と日付を記載し仕切りのついてトレーに入れ、与薬前後には2人で確認し誤薬防止に努めている。また、ご本人に与薬するまで見届けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の特技を活かし、体操や塗り絵、家事活動などを実施し支援している。気分転換で散歩を希望された場合は、職員が付き添い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキを活用し、日光浴や食事会、茶和会を行っている。	天気の良い日は、散歩や、ウッドデッキで日光浴やシャボン玉・お茶会などを行っている。今年度は徐々にドライブにも出かけており、車窓からの風景を楽しみ、人がいない場所では車から降りて気分転換を図っている。	今後は、家族の協力を得ての個別の外出支援等も期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお金を持つ事の大切さを職員は理解しているが、所持することはできない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の携帯で、ご家族や大切な方に電話連絡をされる際には、自尊心に気を付け様子観察を行っている。プレゼントの手紙が届いた場合はご本人にお渡ししたり代読したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、天候によりカーテンを開閉し照明に配慮している。室温湿度計を置き空調を調整している。季節に応じた壁面を考え、入居者と一緒に制作している。浴室やトイレはわかりやすいように表示している。	リビングには大きなテレビ・テーブル・椅子・ソファ・大きな文字で献立を書いているボードなどが配置されている。花や観葉植物を置き、クリスマスの飾りつけが施され、明るく楽しい雰囲気である。訪問時は、テレビを見ている人、談笑している人、話しかけてくれる人などがおり、自由で穏やかな日常が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やウッドデッキにはいすやベンチを設置し、ご本人の希望に合わせて一人になれる空間づくりをしている。リビングでは、ソファや持ち運びが出来るキューブ状の椅子も置き、いつでもくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や作品などご本人の大切にしているものを置いたり、ベッドやタンスの位置に配慮している。	居室には洗面台があり、ベッド・整理ダンス・三段ボックス等が置かれている。ベッドは、入居前からの習慣や身体の状態等によりそれぞれに工夫して配置している。家族の写真や小物などが飾られ、すっきりと居心地の良い部屋づくりが見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身長に合わせ排泄の為にトイレなどの表示を見やすい高さに設置し、表示は大きくわかりやすく表記している。リビングや廊下には不要なものは置かず、転倒防止に努めている。		